

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出勤時にまず玄関内に大きく掲示して有り事務所内にも掲示し、常に運営理念を念頭に置き業務に入るようにしている。	理念に日常的に触れることが少ないので職員間で話し合う機会を持ち、確認を行い日々の介護に反映していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念を見やすい玄関に大きく明示している。地域には運営理念を回覧をすることで伝えている。	面会の少ないご家族もいらっしゃるのでホーム便りを活用したりすることで理解、協力してもらうようにする。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員や入居者も含め挨拶や気軽な声掛けは出来ていて隣近所からは野菜等の差し入れも頂いている。	近隣の方が気軽に立ち寄って触れ合う機会を考えていかなければならない。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加したり、地区の中学生がボランティアとして活動しに来てくれている。今年から地域の防災訓練に参加した。	地区の中学生のボランティア受入れの継続や職場実習の場として活用してもらえるように働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受入れは積極的に行っている。見学等も随時行っている。		地域の自主防災組織に加盟した。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を何時でも閲覧できるようになっていて全職員の取り組み課題として活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画をたて開催は奇数月の第三金曜日とし参加者も予定しやすいようにしている。		この一年はボランティア受け入れを課題にして、その状況は会議にて報告し意見を参考に進めている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回市主催のサービス事業者連絡会があり参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域での研修会に積極的に参加している。		独居世帯の入居者も居られるので、事業所全体で、学んで行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待もある事をホーム会議等で、職員に指導して防止に努めるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>これからも事務的に成らないように個々に合った説明や話し合いを行い気持ちよく入所してもらい退所時はありがとう御座いました、と言って頂ける様にしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>ボランティアに訪問時の感想を記入していただいたり直接話を聞かせてもらっている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>意見、要望、苦情は利用者、家族の権利である事を、随時説明して行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>		<p>マニュアルはあるが、見直ししている途中。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>必要と思われる研修会には出席してもらい内容等を他の職員にも共有できるように報告してもらっている。認知症介護実践者研修は毎年一名受講している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣地区のGHと、連絡会を創り定期的な交流や職員を対象に研修会を計画している。</p>	<p>事業所内でだけでなく、解決困難な事態や相談できる関係が、地域にある事は、大変助かっています。この会を継続できるように協力していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の相談にのったり、職場環境への要望も聞くようにしている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>頻回に現場を訪れて利用者や職員と会話、声かけを行っている。</p>	<p>離職者の多い業界でもあるので利用者への影響や運営面を考え職場環境の改善や個々の評価に努めていきたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申込提出され、入所判定会議に上がった時は、必ず本人と面会し 入所条件に関係している事だけ聴くのではなく、話してくれる事は、何でも聞けるように努力し、入所にあたっては家族から本人へ説明してもらうようにしている。</p>	<p>利用者が入所にあたり不安にならないように努めていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず話をよく聴くことは基本と考えている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には応じているが、担当のケアマネから紹介され相談に来られる方がほとんどです。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前は、家族と見学に来ていただいたり良ければ宿泊してもらいサービス開始は、利用者、家族の意向で決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ちまき作り、干し柿作りなど得意な事は教えて頂き昔の話を聞いたりしている。		大切な安心を利用者が感じてくれるそんな関係が築ける様に接していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援に悩んだ時などは家族に連絡し面会を促したり電話で利用者とは話して頂く等のことを行い利用者の思いを伝えている。		家族への働きかけは継続的に行っていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者本人がふと漏らした言葉や態度などで面会などの働きかけを行ったり面会時は家族だけで過ごせるように居間を提供している。		家族の行事参加を働きかけていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブしながら慣れ親しんだ場所に行き、顔見知りの方が居られれば会話してくるなど暮らしてきた場所を忘れないようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間以外でも、入居者同士お茶に誘ったり入れてあげたりお互いに声をかけあったりと、たまには口げんかなども有りますが、職員が、間に入り内容を変えたりと日々の中で対応している。		ユニット関係なく仲の善い入居者の交流は大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院がきっかけで退所される方が多いので、退所されても面会に行ったり家族から様子などを伝えてくれるハガキを頂いたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を、否定しないで会話や行動から意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が、一人ひとりの生活歴を把握し、本人が大切にしている事を大事に考えて生活できるようにしている。		本人(独居)の自宅裏の畑の心配をしていたので耕作を家族より近所の方に依頼していただき今年はジャガイモ他数種類の野菜作りを行った。草取り、収穫と他の利用者とともにいった。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態は、日々変化する事に注意しながら その日、その時出来る事の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画に活かしている。		本人の本音を、これからも聞き出し、意見や要望を言ってもらえる工夫をしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはしているが、状態変化に応じた検討見直しを行って行きたい		状態変化だけでなく職員の気づきの目やその兆しにおいても見直しが、出来れば良いと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を用意し日常の様子や本人の言葉を記録し、情報を共有し、記録に当たっては記入者のサインをしている。		個人記録以外でも連絡ノートを活用して情報を共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、受診送迎の代行や馴染みの理美容店への送迎や買い物同行などを行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員に運営推進会議のメンバーに入ってもらい意見交換する機会を設け、更に民生委員から地域のボランティアを誘っていただき訪問してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護タクシー利用程度にとどまっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し情報交換や相談できる関係を築いている。		今まで以上に、包括支援センターとの関係を密にし、事業所だけでなく地域全体で利用者の支援をしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等による受診、独居の方などは事業所による受診支援と状況に応じた支援を行っている。		定期受診以外の受診時は同行し医師に詳しく経過説明等を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の確保は出来ていない。		主治医に相談し紹介してもらい必要時に診断、治療できるように支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	在宅療養管理指導を受けておられる入居者は、24時間の相談は確保できているが、その他の入居者に対しての課題は残っている。		入居者の重度化を考えると看護職員の配置や訪問看護ステーションとの契約等も考えていかなければならない。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、本人、家族の要望に応じ洗濯物や消耗品の補充など積極的に様子を見に行き、病院関係者と連絡を取り合って早期退院、早期受入れの態勢を取れるように努力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所相談時、及び契約時で、ホームとしての方針を明らかにし、医療行為の必要になった時など受入れ困難な場合がある事を説明し理解を求めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階では重度化や終末期の利用者を支える体制は整っていない。安易な態度は、利用者、家族に対し失礼になってしまう。出来ない事は十分に説明し納得頂き、同意を得る事が大切と考える。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所される場合など個人情報重視しながら必要な情報など同意を得た上提供し、その他細かな情報なども伝え暮らしの継続性を保てるようにしている。		移り住む方が、何が必要で、何を求めているのか、家族や関係者と協議し、支えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>薬の塗布なども自室または人目に入らない場所で行なっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者毎に言い方を変えたり手振りを加えたりして働きかけを行なう。本人の決定を基本に援助している。</p>	<p>自己決定の機会を増やして、能力の低下を防ぐとともに職員の引き出す能力の向上を図る。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>新聞のチラシを見て食べたい物や買い物の希望があったときなどはその日のうちにお連れしている。受診希望(頻回に整形受診する方がいる)時も管理者の協力などを得ながらできる限り対応している。就寝時間も特に決めてなく自室で遅くまでテレビを自由に見ている方もいる。</p>	<p>食事開始時間は全員が一緒となっているがそれぞれ時間が違っていいと感じている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望する理美容店に行けるように支援している。また本人の電話依頼により肉親の面会時に切ってもら方もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好きな物、嫌いなものの把握し、食べたいもの季節感の有るものを取り入れながら食材の買出しから準備、片付けまで一緒におこなっている。食事は職員が同じ食事を食べ、味の具合や硬さなどを確かめている。肉嫌いの方には魚の献立にして食べて頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙、飲み物等自由になっている。面会者のお菓子の差し入れなどは本人にお渡ししている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の出す排泄のサインの把握をしトイレ誘導を行なっている。特に夜間は排泄パターンの把握により誘導し失禁を減らそうとしている。トイレ内には後付けで必要箇所に手すりを取り付けている。失禁時の汚染パットの片付け時も他者に見えないように行なっている。		出来る限り自然な排泄が、トイレで出来るように援助して、もしも難しくなってもプライバシーに配慮していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、入りたい方は毎日入れるように配慮している。入浴時間も本人に確認し入って頂いている。浴槽内椅子、移乗台、など利用者一人ひとりに合わせて使用し安全に配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や疲れ具合によって自由に休息出来るように配慮している。ほとんどの入居者が、お昼寝をするので、その時はホール内を消灯しゆっくり休息出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝、部屋を自分で出来る掃除をしている。自分の所が、早く終われば共有スペースも手伝ってくれる。～さんありがとうと毎朝聞こえる。気晴らしのドライブ等は、皆さん楽しみにしている。		本人が、出来ない事を探すのでなく出来る事を見極め生活している実感を、少しでも感じられるようにする。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、現金を持っておられる。持っていないでも日常消耗品や欲しい物は、利用者と一緒に買物に行き、現金を渡し支払いもしてもらう。家族からの預かり金は無く、ホームで立替えて購入する。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常は、自由に外に出られる状況になっている。歩行状態の悪い方には職員が付きそう。入居者だけで行ける散歩コースもある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自分から～へ行きたいとはなかなか思いを発してくれることは少ないので普段の会話の中からスタッフが感じ取り個別、あるいは何人かで出掛けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられる方は、自分の居室で話せるように配慮している。		年賀状や暑中見舞など、援助しながらけ出せるようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しているが家族の都合に柔軟に対応している。スペース的に広くないので、面会時は、希望を尋ね居室、居間、ホールで、過ごしてもらっている。家族にはホームでの生活の様子を簡単に話している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを、職員が理解し徹底している。		身体拘束はしない
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵は掛けない。自由に入出入り出来るが、心配な方のある時は、玄関に開閉プザーを設置し安全に努めている。		何時でも外に出られる自由感を、大切にしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール内では、死角にならないように注意して、夜間は巡回をおこなって様子の確認をしている。利用者の所在の把握は常に行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、鍵の掛かる所に保管する。裁縫道具などは縫い針の本数を確認後、使用してもらい使い終わったら職員が、確認する。夜間帯には包丁などの保管場所には、簡単な止め具で直ぐに開かないようになっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の注意力、観察を高め未然に事故を防止できるようにホーム会議等で、話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急手当などの研修を行なっている。緊急時連絡網も電話器の近くに貼り職員周知している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	所管の消防署の協力を経て避難訓練、消火訓練、通報訓練、総合訓練を行い、災害に備えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態を把握し、予測されるリスクを家族に説明し、話し合いで具体策を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックをするだけでなく、表情や声、歩行の様子など変化が、あった時は一人で判断するのではなく報告や職員間で、共有し対応にあたっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録ファイルに処方箋を入れ、職員が内容を把握できるようにしている。薬ケースに入れる職員と配薬する職員と2回のチェックをして服薬してもらう。状態変化は医療機関に連絡、医師の指示を受ける。特に薬が変更され体調に変化が出た時は速やかに医師に報告相談している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないような食材の使用や適度な運動を心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、自分で出来る所は、やってもらい出来ないところは支援している。義歯使用の方は毎日夕食後洗浄剤を使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算まではやっていないが、おおまかに把握している。摂取量は極端に少ない日のみ記入している。自由にお茶は飲み、声掛けも行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	実際に起きた感染症の時の参考にマニュアルを見直し作成した。予防にも十分理解し、徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りの衛生に取り決めがあり、毎回のふきん等の漂白、除菌や買出しも2日に1回行い新鮮な物を使用するようにして食材が残らないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇には、プランターなどを置き花を観れる様になっている、入居者の作品などを飾るスペースもある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには、誰でも自由に座れるソファを置き、一人で座ったり、友達と会話を楽しむ場所になったりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは、一箇所だけでなく利用しやすい所を、使えるようにして野外にもベンチや椅子を置き仲の良い利用者同士でくつろげる場所になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を、利用している方もいるが、本人、家族に働きかけているものの、ホームとしての工夫ができていない。		物にとらわれず、利用者が自分の部屋と思ってもらえるような環境作り、工夫をしていかなければいけない。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール内の換気は、掃除の時と午睡の時空気の入れ替えをしている各居室にも温湿度計を設置しエアコン調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の希望を聞き、手摺りや照明のスイッチの高さを調整し、居室においても身体機能に応じ介助バー、手摺りの設置をしている。		現状に応じた対応、出来る限り早い対応を心がけていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室扉には表札(苗字)を貼り基本的に部屋の変更は行なわない。		入居者と話し合いや職員同士の意見を取り入れまだまだ工夫していく必要がある。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	野外には、ベンチや椅子を置き、日向ぼっこや外気浴が出来るようにしている。小さいながら裏に畑を作り、野菜などの収穫や食材として楽しみにしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)